

もっと現場を知る！職員短期派遣研修報告書

所属名	隠岐島前高等学校	氏名	梶 裕典
派遣先 団体名	島根県江津市嘉久志町イ1249番地12 特定非営利法人活動法人 石見の家 ^や		

【活動内容】

地域密着型通所介護施設にて、利用者の生活補助を行いながら福祉現場での仕事の仕方・実態を学ぶ。

①研修日時

平成25年8月5日（月）～8月9日（金）
8時20分～17時05分

②研修の内容

「デイホームまったり」にて、日々の生活の手助け

1日の流れ

8:20 朝ミーティング

→1日の流れの確認、当日利用される方の注意点の確認。

8:30 利用者のお迎え

→朝の挨拶はしっかりと

9:00 施設着 健康チェック（血圧・体温）

→暑い時期なので、着いたらまず水分補給！

1杯だけでなく、飲み物の種類を変えて2杯3杯飲んでもらう工夫を。

10:00 機能訓練（足踏み、バランス）

→利用者さんができる範囲で行う。周囲が手拍子して数を数えることで、やる気アップ！

10:30 ティータイム

→お茶とお菓子でお話。

新聞の記事や、広告の写真を利用者さんに見せて話題作り。

女性の方には夏野菜のおいしい食べ方などを聞く

11:00 買い物

→近くのスーパーへ、施設で必要な食品を買い物に行きます。

若い頃は普通にしていたことでも、現在は買い物をする機会が無い方も多いため、昔の感覚で



（施設外観）

12:00 お昼ご飯

できるだけ地元の食材を使った料理を。お通じのために食物繊維の多い玄米を出します。

13:00 お昼寝

14:30 レクリエーション

→輪投げ、体操、ボール遊びなど

15:00 おやつ

→誕生日が近い人がいると、シフォンケーキで誕生日をお祝いします。

生クリームや果物などのトッピングは、利用者さんが行います。

16:00 お見送り

→最後に理事長の「あひるのダンス」で締め！

車に乗る前に、利用者さんにトイレの確認。「行くところ行こうか？」とトイレを促す声かけ

16:30 施設の掃除

感想 ○気づいたこと

自分の県職員生活では今までデスクワークが多く、実際に人と接する仕事に就いたことが無かったため、業務で相手方と1対1で接するというのは初めての経験であり、多くの事を学んだ。

まず、福祉現場での仕事を体験し特に印象に残ったことは、「①利用者への声かけ（促し）」、「②利用者との家族のような距離感」の2点である。

①について、夏の暑い時期だったため、熱中症対策のための水分補給は欠かせないのだが、利用者の方は水分を1杯飲むと満足してしまい、十分に水分補給ができない。そのため、ドリンクの種類を変えて「ジュースはどうですか？」と声かけをすることで、相手に水分を飲んでもらう。また昼食時には、肉魚をバランスよく食べてもらうために、「このお肉おいしいから食べてみて。」と声かけをして食べてもらう。トイレやお風呂、体操をしてもらうにも同じように声かけが不可欠で、相手のための配慮、声かけの大切さを学んだ。

②については、石見の家は「一人前の事を当然にできるように、利用者スタッフは家族のように生活できること」をモットーとしており、そのために大事なことは、利用者ができることは自分で行うということだ。洗濯物のタオルたたみや、おやつの皿洗い、買い物など、利用者が若い頃は当たり前に行っていたことのお手伝いをお願いすることで、自分の事は自分ですするという自覚、また自分がこの施設のなかで役立っていると意識することができる。利用者スタッフは単なる「支援者」と「受益者」の関係ではなく、

「家族」のような距離感で接することができている。実際に利用者はスタッフを信頼しているように見受けられ、私自身も利用者に対し自分の祖父母と接するような気持ちであった。この距離感が福祉の現場で大事なのだと感じた。

○学んだこと

上記「①利用者への声かけ（促し）」からは、利用者一人一人を考えて仕事をすることを学んだ。県職員の仕事としては、受益者一人一人の顔が見えにくい部分もあるが、自分たちがしている全ての仕事には、今回出会った施設利用者のようにエンドユーザーが必ずいる。全体意識ばかりにとらわれることなく、一人一人への声かけ（促し）を意識しながら仕事に取り組みたい。

また「②利用者との家族のような距離感」の一人前の事を当然にできるようにするという考え方は、県職員でも通じる考え方だと思った。島根県は中山間地域が多く、過疎化が進み、当たり前前の生活ができなくなっている地域がたくさんある。福祉だけでなく、交通、教育、住環境など、当たり前前の事を当たり前前にできるようにフォローすることが行政の基本だと思った。

○おまけ

研修最終日にこれまでの感謝の気持ちを込めて、海士町のキンニャモニャ踊りをレクリエーションの時間に披露し、皆さんに喜んで頂けた。



(最終日に海士町伝統芸能キンニャモニャ踊りを披露)



(施設の皆さんと)